特集❶

見に行こう！新しいクリーンセンター

現代社会でごみ処理施設と無関係な暮らしをしている人はいません。
新センターのオープンを機に、普段は目にしない施設の働きを確かめに行きませんか？

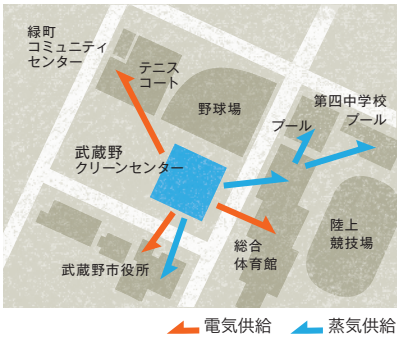
みんなに開かれた新しいクリーンセンター

都市化が進む武蔵野市は、昭和33年に、「ふじみ焼却場」(三鷹市新川)を三鷹市と共同で建設しました。しかし、ふじみ焼却場周辺住民による反対運動が起こり、武蔵野市内に自前の焼却場を建設することを約束しました。昭和54年には4つの建設候補地の周辺住民、市民、専門家による市民参加の委員会での議論が始まり、翌年に「最善ではないが次善の場所として市営グラウンドを用地(現在のクリーンセンター敷地)」と示唆。その後、昭和59年に武蔵野クリーンセンターの稼働が始まりました。以来、周辺住民と市による「武蔵野クリーンセンター運営協議会」で、施設運営のさまざまな課題を解決してきました。

平成20年に、設備の老朽化を機に新センターの検討を開始。新施設の在り方や整備用地の検討から、改めて市民参加の議論を重ね、平成23年には新センターに関する「施設基本計画」を策定。これをベースに市民参加の議論をさらに重ねて生まれた新しいクリーンセンターが、この春ついに本格稼働を始めます。

新センターは、安全・安心を前提に、災害対応力の向上や低炭素化に向けた取り組み、景観をはじめとした周辺環境への配慮など、さまざまな工夫が施されていますが、それだけではありません。「**みんなに開かれたごみ処理施設**」として誰でも気軽に見学でき、楽しめる空間として生まれ変わりました。皆さんが日々、分別しているごみがどのように処理されているのか、ぜひ一度、その目で確かめに来てください。

●周辺施設にエネルギーを供給



周囲の公共施設へ電気と熱を供給するほか、災害時にも電気と熱を供給するシステムを備えています。

新センターの工事が完了し、4月から本格的にごみの処理を始めます。旧センターの解体や別棟の管理棟など一部の工事は平成31年度まで続く予定です。

「先進エネルギー自治体大賞」優秀賞受賞

新しいクリーンセンターは、どんなところが変わったの？

●焼却炉を減らすことができました

皆さんのごみ減量のご協力で焼却炉を３基から２基に減らすことができ、コンパクトな施設になりました。今後もごみ減量のご協力をお願いします。

●いっそう環境に優しい施設に

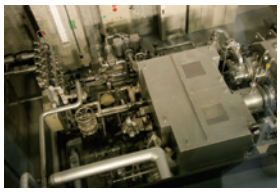
全国でも最も厳しいレベルの排ガス自主規制値をクリアする、最新の排ガス処理技術を採用。さらに、地球温暖化対策として、高効率発電システムを併設しています。

新センター完成までの歩み

平成21年	「(仮称)新武蔵野クリーンセンター施設まちづくり検討委員会」最終報告
	ごみ処理全体から「新施設の在り方」について、とことん議論し、「整備用地の候補地と適合性の比較」を提言
平成23年	「新武蔵野クリーンセンター(仮称)施設基本計画策定委員会」提言
	施設の基本仕様(施設規模・公害防止基準・処理設備・煙突高さ・発電効率など)環境影響調査、事業手法などについて専門家と共に市民参加で検討
平成23年	「新武蔵野クリーンセンター(仮称)施設・周辺整備協議会」提言
	新施設の備えるべき機能、周辺地域のまちづくりなどの検討
平成25年	「第二期新武蔵野クリーンセンター(仮称)施設・周辺整備協議会」提言
	新施設の建築デザインや配置・動線などの検討
平成26年	新センターの工事開始
平成28年	「第三期新武蔵野クリーンセンター(仮称)施設・周辺整備協議会」提言
	新施設の建築・煙突デザインの調整、今後の施設・周辺整備の在り方提言
平成29年	新センターの本格稼働開始

●ごみを燃やした熱で発電します

ごみ焼却で１時間に最大2650キロワット（一般家庭約6000世帯分）を発電。新センターの稼働に必要な電力を賄い、さらに周辺にある市庁舎、体育館などにも供給します。



●煙突から無害な白煙（水蒸気）が排出されます

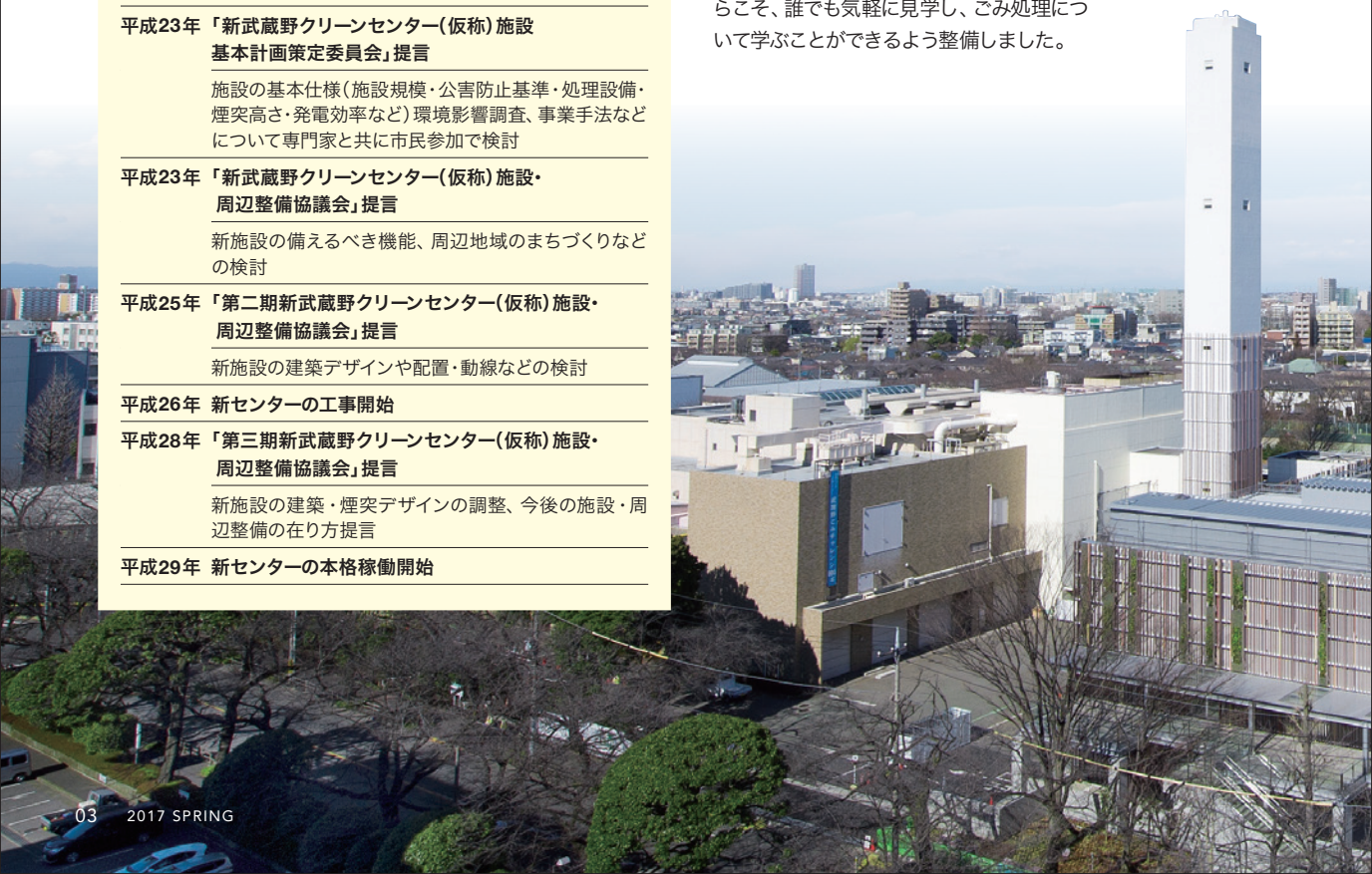
旧センターはごみ処理施設のイメージ緩和のために蒸気で排ガスを温める装置で白煙が見えないようにしていました。実験と住民アンケートを踏まえた検討で、新センターは蒸気をできるかぎり発電に使用するため、この装置を設置しないことにしました。冬場の寒い日は白煙が見えます。

●災害時には頼れる拠点施設に

新センターは施設建物と煙突の両方で法に定める耐震基準の1.25倍となっています。さらに施設内にあるガス・コージェネレーション設備により、焼却炉を再稼働し、災害時もごみ処理を継続しつつ、災害対策本部となる市庁舎などに熱電供給を行います。

●オープンなごみ処理施設に

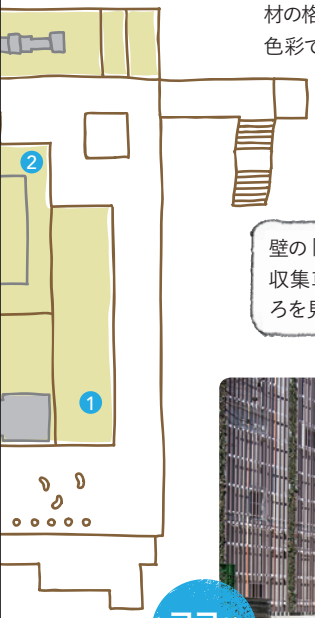
誰もが出しているごみを処理する施設だからこそ、誰でも気軽に見学し、ごみ処理について学ぶことができるよう整備しました。



ココが見どころ

緑豊かな優しい外装のデザイン

緑を植えたグリーンカーテンと、素焼き素材の格子が、まるで雑木林のような優しい色彩で建物全体を包みます。



ココが見どころ

2階の南側テラス

日当たりよく爽やかな空間は立ち寄った人の休憩にぴったりです。

壁の「のぞき窓」からごみ収集車が入ってくるところを見てみましょう。

ココが見どころ

歩道と連続的につながるコミュニティスペース

ごみ処理施設を壁で覆い隠すのではなく、歩道に開放。広いコミュニティスペースは今後イベントなどにも使用される予定です。

見どころいっぱい！

自由見学コースでごみ処理について学ぼう

新センターは、見学時間内は予約なしで自由に見学することができます。見学だけでなく、散歩や休憩で気軽に立ち寄っていただくのもOK。まずは一度、足を運んでみましょう。

予約なしで見学可能 もっと市民に身近な施設へ

百聞は一見にしかず。新センターの特徴を知るには見学してみるのが一番です。2階見学フロアは、見学時間内であればいつでも予約無しで見学可能。本物の施設稼働を見ながら、ごみ処理と暮らしについて学ぶことができます。

武蔵野クリーンセンター

□4月3日オープン
緑町3-1-5 ☎ 0422-54-1221
見学時間／月～金曜 午前10時～午後5時（土・日曜、祝は休館）

※団体見学は事前にご予約ください。
（4月3日より予約受付開始）

ごみ処理施設として見学しやすいことはもちろん、皆さんの日常生活の中でふらりと立ち寄りたくなるような施設になることを目指しています。

環境部クリーンセンター
建設担当
関 彩奈さん

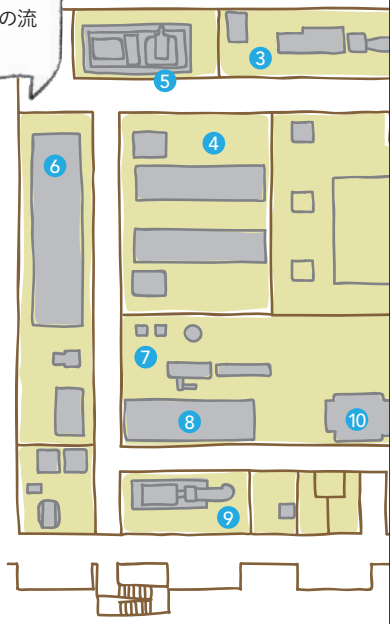
フロアをぐるり1周するだけでごみ処理の流れが分かる

最大の見どころは、ごみ処理の過程が見られること。２階のフロアを通路に沿って１周すると、ごみの搬入から焼却まで、ごみ処理の流れに沿って、稼働している実際のプラント設備を見ることができます。

A エントランスを入ってすぐ目の前にあるクレーン。
B 団体見学者の集合などに使われる広いホール。
C 施設の状態を監視し、操作する中央制御室。
D 焼却後の灰を搬出するための灰ピットが見える。

模型ではなく本物のプラント設備が窓越しに見える！

1周約160メートルのフロアでごみ処理の流れが分かる！



1. 中央制御室
2. プラットホームとごみピット
3. ガス・コージェネレーション
4. 焼却炉室
5. 蒸気タービン発電機
6. 蒸気復水器
7. 灰選別室
8. 灰ピット、灰操作室
9. 不燃・粗大ごみ選別室
10. 不燃・粗大ごみピット

4月2日「桜まつり」もお楽しみに

市民のふるさとづくりと友好都市との交流促進を目的として平成５年に始まり、すっかり市内の恒例行事となった「武蔵野桜まつり」。今年は４月２日（日）に開催。新しく生まれ変わった武蔵野クリーンセンターの見学者コースを開放します。また、新センターのコミュニティスペースやテラスでも美しい桜を楽しめます。

楽しく学べる工夫も

施設内はプラント設備の見学だけでなく、タッチパネルやタブレットなどで学べる仕掛けもたくさんあります。

ぜひお越しください“新しいクリーンセンター”

周辺住民の皆さんのご理解とご協力により、いよいよ４月より新しいクリーンセンターが本格稼働します。９年間の市民参加の議論を重ね、「最新鋭のプラント設備の導入による安全・安心な施設づくり」、「ごみを燃やした廃熱利用発電の導入」、「災害に強い発電設備の導入」、「武蔵野の雑木林をイメージした外観デザインによる景観の調和」、「自由に入れる見学者コースによる開かれた施設づくり」を実現した新しいクリーンセンターが生まれました。ぜひ見学にお越しください。

環境部クリーンセンター建設担当課長
木村　浩さん

暮らしに溶け込み愛される新センターへ

同協議会
吉祥寺北町五丁目
町会推薦委員
村井寿夫さん

「新武蔵野クリーンセンター（仮称）
施設・周辺整備協議会」会長
東京学芸大学名誉教授
小澤紀美子さん

煙突は、旧センターのものを再利用しました。より高い煙突を新築する考えもありましたが、クリーンな排気ガスだという理解が住民にあれば、再利用で十分だったためです。煙突のデザインは、建物の雑木林のデザインに合わせて、更新しました。

今年4月に稼働を始める新しいクリーンセンター。市民が誇れる施設にしようと学識経験者や市民の代表の皆さんが集まり、協議を重ねて出した意見を反映してつくられています。協議の中心となった「新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会」の会長と市民委員にオープン直前のセンターへの想いを伺いました。

まち並みと施設を一体化

――新センターを一目見た感想を教えてください。

村井さん　大きな窓があり、日差しが入って明るく、開放的な雰囲気なのが良いですね。ごみ処理施設らしくない外観にという意見を反映していただけたと思います。

小澤さん　武蔵野の雑木林をイメージした外壁は、陶器製の茶色いルーバー（縦格子）と苗を植えたグリーンカーテンでできています。今後、苗が成長して**街路樹と一体化した緑の景観**ができるのだろうと想像すると、楽しみです。

――市民の方にぜひ見てほしい場所はありますか。

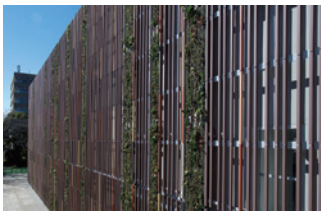
村井さん　施設内の見学コースはごみが運ばれて処理されていく様子が大きな窓からのぞけるので分かりやすいと思います。また2階北側にはデッキがあって隣の野球場を眺めながらのんびりできます。周囲の施設と同様に、暮らしに溶け込んだ場になるのではと思っています。

小澤さん　この施設がどうあるべきかという議論を重ねる中で**低炭素地域をつくること**を目的の一つとして決めました。私たち市民が自ら環境について考えるための仕掛けが中にも外にもいろいろできています。何度も来て、存分にさまざまな箇所を見てもらえたらと思います。

市民が誇れるセンターに

――旧センターからの建て替えで良くなったと思われる点は

●雑木林のような外壁



やわらかな質感のある陶器製の縦格子は、角度によって見え方が変化し、雑木林のような立体感を感じさせる。

●野球場を観戦できる北側デッキ

ごみ処理施設に用がなくても、野球観戦のために訪れるのもOK。市民が自然と足を運びやすい場に。

交換

「新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会」

新施設に備えるべき機能や周辺のまちづくりがどうあるべきかなどを検討するために設置された協議会。現在は第四期となる協議会が平成30年6月まで設置され、新センター周辺のまちづくりなどについて議論を続けています。

◀協議会は学識経験者や周辺住民団体の代表などによって構成され、平成22年3月から煙突や新センターのデザインなどについて何度も協議と研究を行ってきました。

協議を通じて生まれた さまざまな特徴

施設・周辺整備協議会は、建設前の第一期・第二期、建設事業者が決定後の第三期・第四期のそれぞれで市と協議を重ね、「市民が誇れるごみ処理施設」の実現のために、さまざま意見やアイデアを出してきました。

低炭素社会モデルの実現

第一期から提言されてきたビジョンの一つが「低炭素社会モデルの実現」です。排ガス処理における技術導入の検討や、煙突再利用の検討など、いくつかの意思決定の場面では、施設・周辺整備協議会の声によって、より低炭酸素社会に貢献できる選択を行いました。

すべての人に開かれた建築デザイン

第一期の考え方を基盤に、第二期にまとまった建築デザインのコンセプトは、第三期の建設開始後もオープンで親しみやすい新センターの実現に向け意見調整を繰り返してきました。

こでしょうか。

村井さん　当初は建物を壊さず、設備だけを新しくすれば良いのではとの意見もありました。しかし安全性を考えた時に、建物も同時に建て替えることが望ましいということになりました。そこで煙突をリフォームして使用し、以前の事務棟やプラットホームを残して、環境啓発施設エコプラザ（仮称）にする計画など、利用できるものは残して**もったいないを実践**する考えで進められています。

小澤さん　高い技術を取り入れて、定められた環境基準を大きくクリアした施設です。さらに、周辺の施設に電気と熱を供給することもできます。施設を見ながら、自分たちの生活とごみ、エネルギーなどについて考えるきっかけになるのではないでしょうか。

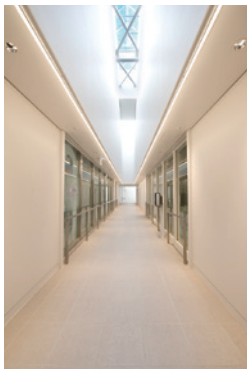
村井さん　一般的にごみ処理施設は迷惑施設のようにとらえられていますが、新センターは**市民が誇れる施設にしよう**という逆転の発想。価値観を変える場所になるのではないかと期待しています。

小澤さん　隠すのではなくオープンにする「見える化」を意識していますね。

村井さん　例えばごみを降ろすプラットホームには**「のぞき窓」**があるから、子どもたちが散歩の途中で、ごみ処理の様子を自然に目にすることができます。こうした画期的な部分もぜひ注目してほしいですね。

小澤さん　春は桜の花、秋にはいちょうやもみじを愛でながら、ごみと未来についての話題が自然にのぼってくるような若者たちが育つ場になってくれたらと思います。

●木陰のような施設内



施設内は、高い天井から光が取り込まれて反射し、木陰から空を仰ぐようなやさしい明るさを保っている。

平成28年3月の江東区「えこっくる」視察

平成27年6月の建築デザイン意見